

連載

15 在宅医療奮闘記

平成7年より
在宅を開始した

私の思い出

(医)東西会 千舟町クリニック院長

橋本 満義 (62歳・内科)

長生きすぎたよ。
これ以上、
お国に迷惑かけたくない。



十数年前になりますが、松山市の山間部から往診依頼がありました。そこは行けども行けどもなかなか到着しない無医地区でした。

患者さんは、誤嚥性のため食事がしにくく脱水症をおこしていました。その90歳前後の老婦人は、生来病院嫌いで診察を今まで拒否してきたようです。

「おばあちゃん、せっかく先生に遠いところから往診に来ていただいたのだから、診察してもらいなさい」と、お孫さんは強い口調で怒鳴りましたが、どうやらご本人は安楽死を望んでいるようでした。そこで公務員のお孫さんにはお仕事にもどってもらい、ご本人と私とで少しお話することにしました。

「おばあちゃん、これはね、お医者さんの集まりの医師会で治すことは決まっているのよ」と説明し

たものの、「……」まったく反応がありませんでした。それではと「お国の方針で病気を治すことが決まっているのよ」と言うと、「私はあまりに長生きすぎて、これ以上お国に迷惑をかけたくないよ」という返事が返ってきました。そこで、しばらく雑談してみることにしました。

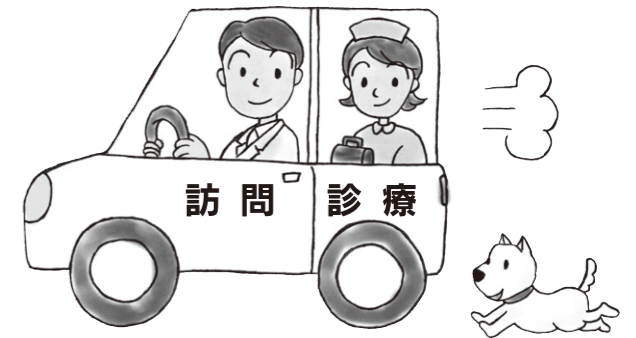
「親が一山越えた隣村の男性と決めてきて、結婚式の時に初めて会った……」と、だんなさんのことや、今まで大変な事もあったけれど農業の楽しさもあったなど色々話をされました。そして「またお話しに来てもいいですか」と尋ねると、「来てもいいよ」とお返事いただいたのです。さらに「天皇陛下さまは国民の幸せを願っていらっしゃいますよ。お注射を1本させてね」と言うと、「ああ、いいよ」と応

えていただき、なんとかその日の医療行為を終えることができました。その後、定期訪問をしていましたが、4ヵ月後に天国へと旅立たれたのです。

往診の行き帰りには、小川のせせらぎや秋の佇まいといったパノラマのように広がる素晴らしい風景を目にし、とても感動したものです。

在宅高齢者医療は単に「医療」の提供というよりも、たとえ終末期であろうと、患者さんに“生きる”希望を持っていただくことが最も大切であると思われまます。(クオリティ・オブ・ライフ)
また、日本の歴史・伝統・文化がこれほどまでに「人間の心」の扉を開くとは……深く感服いたしました。

「お医者さんが来てくれる」
質の高い在宅医療・看護・介護
を『千舟町クリニック』は目指しています。



機能強化型・有床 在宅療養支援診療所

(医)東西会 千舟町クリニック

松山市千舟町6-4-9 Tel:089-933-3788

<http://www.touzaikai.jp/>